

# 井上孝代先生のご退職にあたって

金子 健（明治学院大学心理学部長）

私たち心理学部教職員と修了生・卒業生の誰もが敬愛する井上孝代教授が、2013年3月をもって、定年によってご退職されました。

井上孝代先生は、1998年4月、東京外国語大学留学生センター教授から、明治学院大学文学部心理学科教授として赴任されました。

心理学科は、1990年、文学部教職課程を母体として学校カウンセリングと特別支援教育の担当教員が中心となって設立されました。現代社会における子どもの成長発達の問題に対応する支援力を身につけた人材を育成することが目的でした。

当初6名の教員で出発した心理学科は、所期の目的を達成するために教員の増員によってカリキュラムの充実を図ることになり、とりわけ学校から地域社会への広がりへの対応が要請される中、コミュニティをベースとしたカウンセリングの分野を担う教員として井上先生がご着任されたのでした。着任早々の1999年4月からは、大学院文学研究科心理学専攻主任教授、2002年からは、文学部心理学科主任をお務めいただきました。大学院では、臨床心理士養成のためのカリキュラムの充実にご尽力くださり、今日に至るまでに多くの心理専門職の育成に多大な功績を残しておられます。

着任早々から、先生の類まれな発想力と行動力は、次々と新企画を産み出して来られました。2004年4月、念願であった心理学部としての独立に際しては、明治学院150年の歴史を踏まえ、「こころの時代」とされる現代社会における様々な課題に応える新しい学部を設置するとの強い信念のもと、学内の合意形成、文部科学省への設置申請など、幾多の難題に立ち向かい、それを実現させました。明治学院の「Do for Others」を基本理念としつつ、心理学部のカリキュラムの基本を「こころを探り、人を支える」と定め、学部基幹科目「心理支援論」を1年次から4年次までを通した必修科目としました。この取り組みは、白金心理学会の設立、2008年度から2010年度にわたる文科省GP「心理支援論：心理学教育の新スタンダード～コミュニティ資源を活用した体験活動および循環型教育システムの導入と評価」の獲得へと繋がることとなります。

2007年4月から2012年3月までの5年間にわたり、心理学部長をお務め下さいました。この間、2010年4月には、新たに教育発達学科を設置することになり、ここでも井上先生のリーダーシップが存分に発揮されることとなります。さらに、学部長の任期を終えられたのち、鶴殿博喜学長からの強い要請を受け、定年までの1年間、副学長に就任されることとなります。学科、学部の枠を超え、明治学院大学としての大学改革、国際化に心血を注がれました。

このように、150年の明治学院大学の歴史において、最も新しい学部としての心理学部の誕生と発展に多大な功績を遺された井上孝代教授が、ご定年とはいえご退職されるということは、学部にとって、そして大学にとっても、大きな損失であると言わざるを得ません。しかし、心理専門職として巣立った多くの修了生、教えをいただいた2000名に及ぶ学部卒業生、そして誰よりも私たち心理学部教職員は、先生の熱き想いを受け継ぎ発展させることをお誓い申し上げて、先生への感謝の言葉としたいと存じます。

井上孝代先生の今後ますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。